

口 差 点

こうさてん

対馬丸のことを私たちはあまり知りません。昭和19年8月、沖繩から九州に向かった疎開船です。老朽化した貨物船に乗せられた1700人、うち学童は半数の800人でした。出航翌日、アメリカ軍の魚雷に撃沈され、学童の生存者はわずか59人でした。

60年後、対馬丸記念館が設立され、私は開館7年目に訪れました。「平和の

約束コーナ

」の図書

室に、私は

半年前に

上梓した絵本『ピアニストの兵隊さ

ん』を置かせていただき、そこで一

冊の絵本に出会いました。金城明美

文・絵『ケイ』です。

著者金城さんの小学校の恩師が、

生存者のひとり平良啓子さんでし

た。平良先生が伝えた対馬丸の体験

を、金城さんが絵本『ケイ』に、

やがて金城さんも先生になられ、今

子どもたちにそれを伝えていきます。今年10月、金城先生から数冊の御著書を送っていただきました。そのご縁で、80歳の平良啓子さんのもとに絵本『ピアニストの兵隊さん』が届きました。「感動しましたよ。よく書きましたね。対馬丸のことを最初に講演にいったのは長野県でしたから、懐かしいです」。そのお言葉に涙がこみあげてなりませんでした。

絵本が つないだ 対馬丸

対馬丸の語り手

は4人になり、ひ

めゆり学徒も高齢

で語れなくなった

ということでした。「今日の聞き手は明日の

語りべ」のときになったのです。先日、平

和首長会議での松井広島市長さんの言葉が

ひびいてきます。「原点は、もう同じ被爆

(戦争)の思いをさせないというシンプル

なことなのです」。原点に立ちかえるとき

ではないでしょうか。

(松本市波田、古畑博子、65歳)